

西浮通信

令和3年9月30日
NO. 373
東京都北区立西浮間小学校
校長 小島 みつる

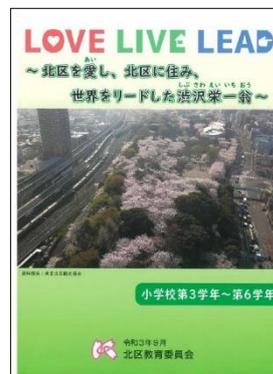
渋 沢 栄 一 翁

校長 小島 みつる

新型コロナウイルスの緊急事態宣言が9月30日で全面解除となりました。確かに、一時期に比べると感染者数は減っています。しかし、これから冬に向かう時期は例年であれば、インフルエンザの感染が心配されるなど、感染症が広がる恐れのある時期でもあります。学校では北区のガイドラインに則り、基本的な感染予防対策を徹底した上で、教育活動の充実を図ってまいります。今後も、ご家庭でも感染予防についてご理解ご協力をお願いいたします。

さて、3年生～6年生の児童に北区教育委員会から「LOVE LIVE LEAD ～北区を愛し、北区に住み、世界をリードした渋沢栄一翁～」という副読本が配られました。今、最も注目されている近代日本の偉人が渋沢栄一です。2024年に新発行される1万円札には渋沢栄一と東京駅が描かれることになっています。NHKの大河ドラマを見ていらっしゃる方々をご承知でしょうが、渋沢栄一の偉業を簡単にご紹介します。

江戸幕府最後の将軍慶喜がまだ一橋家にいた頃、家臣の推挙で渋沢栄一は召し抱えられました。渋沢は、1867年パリ万博を視察後、ヨーロッパ各国を訪れました。帰国後、渋沢は大蔵省に在籍しますが、退官後は第一国立銀行（現みずほ銀行）の頭取に就任し、以後、実業界で活躍し東京ガス、東京海上火災保険、王子製紙、帝国ホテル、秩父鉄道、東京証券取引所、キリンビール、サッポロビールなど、多種多様の企業の設立に関わり、その数は500を超えます。渋沢は「日本資本主義の父」と呼ばれ、日本の近代化を象徴する人物となりました。また、現在の一橋大学や東京経済大学、日本女子大学の設立など高等教育の普及にも尽くしました。養育院（現東京都健康長寿医療センター）の院長を務めるなど、500以上の慈善事業にも関わりました。また、当時の日本にはなかった考え方「道徳と利益追求の両方が大切」という渋沢の講演をまとめた「論語と算盤」という書物もあります。その中には「自分を知る」「どんなことも、誠実さを基準にする」「思いやりを大切にする」「公のために尽くす」といった今を生きぬく考え方が詰まっています。



渋沢資料館

埼玉県深谷市生まれの渋沢が、なぜ北区で大きく取り上げられているのだろうか？と思われる方も多いかもかもしれません。実は、渋沢は北区の飛鳥山に邸宅を構え、活動の拠点としていたのです。その渋沢邸跡地には、現在渋沢資料館が建ち、旧渋沢庭園に残る大正時代の建築物2棟は内部公開（要事前申込み）されています。ぜひ、配布された冊子を読んだり、資料館を訪れたりして北区ゆかりの偉人「渋沢栄一」について、親子で学んでみてください。（ちなみに、この冊子の作成には西浮間小学校前任の中村都士治校長先生が中心になり、本校の関口美和先生、今年度異動された宮野正則先生が作成委員として関わっています。）

10月は学期末・学期始めの折り返し地点であり、コロナ禍の日々にも変化が現れそうな時期です。最後にこの言葉を。「目先にすぐ成果が出ないとしても、それはまだ機が熟していないだけだ。タイミングがまだ合っていないだけなのだ。事を諦めることなく、忍耐強く進めるべきだ」（渋沢栄一）

通知表「あゆみ」について

10月8日は1学期の終了日になります。4月からの学習・生活について、児童の頑張りや今後の課題を「あゆみ」でお知らせします。じっくりとお読みにになり、ぜひともお子さんを褒め励ます材料にいただければと思います。お渡しした「あゆみ」は、家庭からの欄にご記入の上、10月18日までにご提出ください。